

マーケットの動き（2022年8月8日～8月12日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいとなりました。

週初は、前週末の米国国債の下落を受けた買戻しの動きから金利低下でスタートしましたが、その後は米国CPI（消費者物価指数）の発表を10日に控え動意に乏しい展開となりました。発表された米国CPIはインフレ鈍化を示したものの、米国株式が上昇したことにより相対的に安全資産とされる米国国債には売りが出たことで、前週末とほぼ同水準で週を終えました。

ドイツ国債市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。

投資環境見通し（2022年8月）

長期金利は米国、欧州（ドイツ）とも低下基調で推移

米国：根強いインフレ圧力を背景としたFRB（米国連邦準備制度理事会）の金融引き締め加速観測は残りますが、欧米の景気後退懸念に加え、来年以降は利下げが検討されるとの一部の見方もあり、長期金利はやや低下基調で推移すると予想しています。

欧州：資源価格の動向や物価関連の経済指標に神経質な展開が続くとみられますが、景気後退懸念が広がる中、当面のドイツ長期金利は低下基調で推移するとみています。

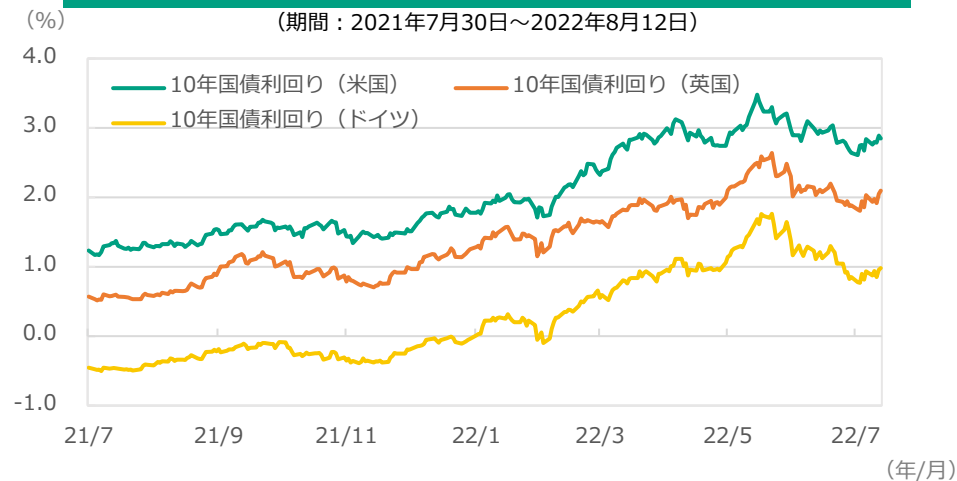
	8月12日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	2.85	0.01	▲0.11	0.90	1.47
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	522.62	▲1.19%	▲0.52%	3.60%	2.00%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202208_outlook.pdf

主要国国債利回りの推移



FTSE世界国債インデックスの推移



※2021年7月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>